

次期総合計画・都市計画マスタープラン
横山地区まちづくり会議報告書

平成30年9月

横山地区まちづくり会議

目次

(課題と対応方策)

- 1 【重点】道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 3 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 4 産業・観光・商店街・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 5 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 6 健康・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 7 教育・子育て・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- 8 【重点】生涯学習・文化・スポーツ・・・・・・・・ P 7
- 9 地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8

(付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

1 【重点】道路・交通

現状と課題

横山地区には依然として交通不便地域が存在し、交通網の充実について進展が見られていません。高齢化の進行や高齢者のみの世帯の増加が見込まれ、運転免許の返納が勧奨されている中、交通網の充実がますます喫緊の課題となっています。

また、自転車の往来が危険な道、樹木が育ち起伏が生じている道、見通しの悪い交差点など、安全・安心な交通環境の整備に向けて、対応が必要な箇所があります。

対応方策

バス路線の充実やコミュニティバスの導入など、これまでも提言していた公共交通網の充実を進めるとともに、高齢化の進行を踏まえ、乗合タクシーや移動販売車の導入、タクシー券の発行など、交通の不便を補うための対策を実施する。特に、横山から橋本・北里大学病院・市役所方面への交通の利便性を高める対策を優先的に実施する。(行政・民間)

自転車の往来が危険な道があることから、自転車専用レーンの設置、自転車利用マナーの啓発など、歩行者の安全対策を行う。(県道相模原立川など)(行政)

- ・ 変則的(てるて公園入り口交差点など)で見通しの悪い交差点の安全対策を進める。(行政)
- ・ 横山小学校付近について、登校時に児童が滞留しないような交差点の改良や、狭小な道の拡幅を行う。(行政)
- ・ 樹木が育ち起伏が生じている歩道、枝葉により信号が見えにくい交差点、白線が薄くなっている横断歩道、電柱の場所が危険である箇所等について、安全対策を行う。(行政)



てるて公園入り口交差点

2 住環境・生活環境

現状と課題

空き家の増加により治安や景観の悪化が懸念されること、ゴミ捨てのルールが守られていない状況があること、米軍機の騒音問題などへの対応が必要となっています。

対応方策

- ・ 空き家の有効活用を進める。(行政・市民)
- ・ ゴミ捨てのルールの周知・啓発を行う。(行政・市民)
- ・ 米軍機の騒音の解消に向け、米軍への要請活動を行う。(行政)

3 自然・環境

現状と課題

住宅の増加により地区の緑が減り、また高齢者世帯や独居の世帯が増加している中、地域の憩いの場・交流の場としての緑地や公園は、ますます重要となっています。

整備が行き届いていないことから安全・安心に課題がある場所への対策が、大きな課題となっています。

対応方策

緑地や公園に暗い場所があり、安全・安心な利用ができないことから、樹木の剪定や防犯灯の設置などにより、地域の交流や世代間交流の場として更なる活性化を進める。(横山丘陵緑地(姥沢地区)えのき公園など)(行政)

- ・ 緑地の保全を行う。(行政)
- ・ 遊具の充実などにより、公園で行える活動の幅を増やすことで、子どもたちの遊び場の充実や、公園の魅力向上を進める。(行政)



3 横山丘陵緑地の散策路



えのき公園

4 産業・観光・商店街

現状と課題

商業施設の撤退により、買い物が不便となり、高齢化の進行が見込まれる中、利便性の向上への取組が必要となっています。

対応方策

- ・相模原駅前や横山地区への商業の集積、移動販売車の導入などにより、利便性の向上につなげる。(行政・民間)
- ・企業を誘致することで、従業員の地区内居住を促進し、地区の活性化につなげる。(行政)

5 安全・安心

現状と課題

地域コミュニティが希薄化する中、子どもたちを地域で見守る仕組みづくりや、防災や災害に対する地域全体での取組がこれまで以上に必要となっています。

対応方策

- ・「子ども110番の家」について、さらなる周知と活用に向けた取組を進める。(行政・市民)
- ・防災訓練への参加や、自主防災隊への参加を促し、地域の防災意識を向上させる。(行政・市民)

6 健康・医療・福祉

現状と課題

高齢化が進行する中、医療体制の確保、健康づくりの推進など、高齢者が元気で暮らし続けることができるまちづくりが必要となっています。

対応方策

- ・救急医療体制の確保に努める。(行政)
- ・高齢者がスポーツなどを行う場を設置し、健康づくりを推進する。(行政・市民)
- ・屋外で休憩できるスペースを設ける。(行政)
- ・認知症への理解を促進するなど、高齢者を地域で見守る体制を作る。(行政・市民)
- ・バス停のバリアフリー化を進める。(行政)

7 教育・子育て

現状と課題

核家族化や共働き家庭の増加などにより、放課後の子どもの居場所の確保や、子どもの遊び場の確保が必要となっています。

また、親子のコミュニケーションの不足が課題となっています。

対応方策

- ・ 放課後の学習の場や、ボール遊びなど様々な活動ができる遊び場を確保する。(行政・市民)
- ・ 子育て等に関する家庭教育や、親子が共に行う地域行事(横山小学校と地域が連携してメタセコイヤの木を活用した行事を行い、子どもたちの思い出づくりや地域への愛着の醸成につなげるなど)を行う。(行政・市民)



メタセコイヤの木
(横山小学校)

8 【重点】生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

地域の文化財としての「てるて姫伝説」について、地域ぐるみでPRを行うとともに、後世へ継承していく取組が必要となっています。

対応方策

「てるて姫伝説」が、その名前のみならず、内容を含め確実に後世に伝わるよう、子どもたちの理解を深めるなど、様々な取組を進める。
(行政・市民)

【具体的な取組案】

- ・カルタや冊子の作成
- ・シンボルマークやマスコットキャラクターの作成
- ・榎神社の整備や看板設置によるアピール
- ・横山丘陵緑地（姥沢地区）の、PRや継承の拠点としての整備など



照手姫遺跡の碑
(横山丘陵緑地・姥沢地区)

9 地域コミュニティ

現状と課題

少子高齢化が進む中、自治会や子ども会への加入者の減、地域活動の担い手の不足など、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

対応方策

- ・自治会や子ども会への加入を促進するとともに、自治会館や子ども広場などの活動場所の確保に取り組む。(行政・市民)
- ・高齢者同士の交流や、世代間の交流ができる場(休耕地を活用して親子や三世代での収穫体験を行うなど)を設ける。(行政・市民)
- ・健康づくりや地域づくりについて考えるグループの立ち上げなどにより、地域活動の担い手の育成につなげる。(市民)
- ・高齢者施設の入居者と地域住民の交流の場を設ける。(市民)
- ・地域行事等への子どもたちの参加を促し、郷土意識や愛着を持てるようにする。(市民)
- ・横山地域内に行政の拠点を設置し、地域コミュニティの核とする。(行政)

(付属資料)

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月14日	第1回 ・地域の課題(良くなった・悪くなった点)の抽出	18名
6月18日	第2回 ・課題と対応方策検討(主にハード分野)	19名
7月9日	第3回 ・課題と対応方策検討(主にソフト分野)	16名
8月28日	第4回 ・報告書のとりまとめ、重点項目の検討	12名

